



教育講演会報告「新しい選択肢」

全 5 回にわたった教育講演会が無事終了しました。4 回、5 回それぞれの教育講演会の内容をご報告するのですが、はじめに全 5 回を振り返っての結論からお伝えします。

「コロナ禍で考える教育の在り方」をテーマとして企画した連続講演会でしたが、講師から見事に共通して語られたのは「新しい選択」ということでした。もちろんそれぞれの表現は違いますが、「今とは逆の社会へ」「『別の社会』の選択」「ケア革命を！」といった言葉の奥にある思いは共通であったと思います。そしてまた、選択肢としてどのような社会や教育を展望すべきなのかということも語られ、具体的な姿もイメージできました。あとは、私たちがどのような道筋を描き、どのように行動するのかという課題が残ることになります。

第4回教育講演会「偏見・差別・自粛警察を考える」座談会

2021年1月23日オンライン

山口 毅氏(帝京大学文学部准教授)

1, 「正しい情報」が不確定である以上、それに依拠して差別を消すことはできない

東京都教育委員会が児童用教材として作成した資料には、「正しい情報」により不安を解消し、「温かいこころ」「温かいことば」を届けることが大事だと記されており、コロナ禍の中では、「正しい情報」と個人の振る舞いや心がけに、問題を回収する言説がいたるところで聞かれた。

「正しい情報」に関しては、コロナ対策分科会ワーキンググループも、「意思や保健所の判断よりも厳格に人を遠ざけたりする行為や、過度な消毒を求める行為も差別的な言動の遠因になり得る」と述べている。しかし、「医師や保健所の判断」が必ずしも統一されていなかったのはよく知られている。

現代社会はリスクが多様で複雑であるため、リスクの全体像を専門家が認識することはできない。たとえば、福島原子力発電所の事故などはその例である。

「正しい情報」が不確定な以上、それに依拠して差別を消すことはできないのだ。

2, 個人の振る舞いや心がけに問題を回収するアプローチの困難さ

感染者や感染リスクの高い者を非難することが許される場合と、差別と指弾される場合とがある。さらに、非難して良い/悪いの境界線は変わりうる。「夜の街」の人々がバッシングに反論することもあれば、医療従事者の落ち度をバッシングすることもある。「自粛警察」と呼ばれ、過度に自粛を求める動きもあった。

このような混迷と不寛容がはびこるのは、感染リスクへの対処が個人の振る舞いや心がけの問題と見なされているからである。そして、差別する者は他者の振る舞いや心がけを問題として差別し、差別を非難する人たちは、差別する人の振る舞いや心がけを非難する。ここにおいて、差別と反差別は同根であり、個人の振る舞いや心がけの問題として差別をとらえるアプローチは、不寛容を阻止できない。

3, 「学びを止めるな」と学力格差問題

「学びを止めるな」の大きな理由は、学力を獲得できず、将来にわたって職業的地位などに影響することを恐れるからだろう。とりわけ、低階層の家庭の子どもの場合は、学力の低下が危惧される。学力格差が家庭の階層格差問題であることは広く認められている。

だが、学校が学力格差を押しとどめる力には大きな限界があることもよく知られている。学校教育は階層の世代的再生産をおおむね抑止できず、機会の不平等を解消できないことは、様々なデータで確認できる。とはいっても、たとえば家庭環境に配慮した学力向上策は重要な課題とされ、少しでも機会の不平等を弱めることに注力することになる。

こう見てくると、コロナ禍における差別も学力格差問題も、なかなか抜本的な解決策が見いだせない袋小路に陥っているように思える。

4, 「別の社会」の選択

コロナ禍での差別と学力格差に共通することは、これまでに「別の社会」が選択されてこなかったツケを、個人の振る舞いや心がけによって自己責任で処理することを強いられているということである。

新型コロナについていえば、自然の乱開発に伴う新たなウイルスの出現、経済優先による新型コロナ対策の遅延、貧困状態の放置、医療体制の抑制といった、資本主義の誤りや国家政策の誤りによって、別の社会が選択されてこなかったことである。

学力格差では、中間層の解体と全般的な貧困化が、学力格差の背景にあることを忘れてはならない。

経済的な再分配とケアを重視した、無条件に生を保証する社会の実現が必要とされているし、学力を巡る競争と切り離されたケアの実践を広げるような学校現場が求められているのではないだろうか。ベーシックインカムなどの新たな社会システムが検討されなければならない。

1, コロナ・パンデミックで露呈したこと

コロナ・パンデミックで、今(まで)の社会のありようが露呈した。たとえば、学校に通う子どもがいる親たちは、学校の時間割と職場の労働時間にズレがあることを痛感した。本当に必要なことに時間が割けなくなっている社会にわたしたちは生きているのである。また、本当に重要なことに、お金を使わなくなった社会がそこにはある。公的教育支出の対 GDP 比は先進国中最下位だし、子ども・若者1人あたりの公的教育費支出額も年ごとに落ちている。一方で、異なる環境にある人々は、異なるニーズが満たされなければいけないことに気づかず無視する政治も続いている。麻生元総理は、少子化に対して『結婚して子どもを産んだら大変だ』とばかり言っているからそうなる」と発言しているし、「私たちはコロナがどういう形であろうと必ずやる」と豪語した森オリンピック委員会会長もいる。大阪では足りなくなった医療従事者の防護服の代わりにビニール合羽を集めたが、それを批判されると「ないよりはまし!」と強弁したりしている。

2, ケアと資本主義の相容れなさ

ケアを軸に今の社会とこれからの社会を考えてみたい。

なぜ、ケアに関わる多くの労働は、無償あるいは低賃金なのか? 生まれたばかりの赤ちゃんを社会が要請する「成人」に育てるためには、かなりの労力が必要であるにも関わらず、資本主義にとって最も必要な労働力に対して、なぜこれほど資本主義は冷淡なのか。そして、そもそもなぜ、女性にケア役割が押しつけられてきたのだろうか。それは、ケア労働の多くは労働集約的すぎて効率化がきかず、また、生産物もはっきりしないため、市場価値がつきにくく、資本主義とは相容れない側面があるからである。だから、ケアの価値が公的に評価されたとしても、資本主義を基盤とする社会の公的な場には、ケア実践をしたこともないような人ばかりがいることになっている。

マルクスの影響で「再生産労働」概念が発見され、女性たちは「再生産労働」から解放されれば良いのだろうか。また、女性たちが担っている「再生産労働」はそもそも労働なのだろうか?

ケアすることとは、わたしたちが直接的に諸個人を助けるためになすあらゆることと定義できる。それは、彼女・かれらの命に関わる生物学的ニーズを満たすこと、不必要な望ましくない痛みや苦しみを避けたり、緩和したりすることである。それによって、彼女・かれらは、注視・応答・敬意に満たされながら社会の中で生き延び、成長し、働くことができるようになる。

こう考えてくると、男性中心主義的社会のイメージを捨て去り、ヴァルネラブルなひとを第一に考える社会を構築していかなければならないと考えられる。それは、ケア関係を中心に社会を考えることでもある。

ケア実践のなかから生まれてくる、「ケアの倫理」は私たちに実に多くのことを教えてくれる。

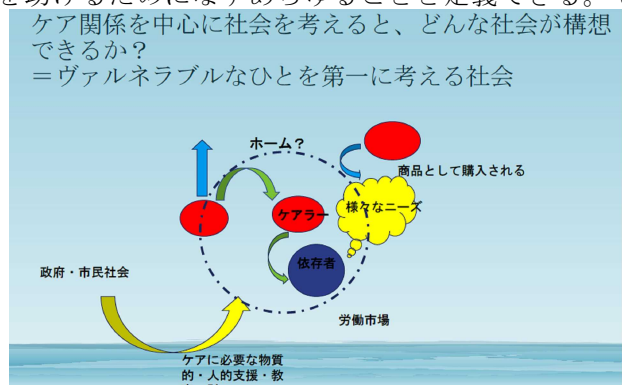
傷つきやすい他者に対する、非暴力的な対応の在り方 = 注視

ケア実践から生まれ、育まれる知や価値観は、社会の関係性を大きく変える可能性がある。

3, 今わたしたちがしなければならないこと...ケアのなさに抗して

地球規模での気候の危機が待たなしの状況になっているのと同様、わたしたちのケア関係も危機的な状況が進んでいる。家族中心の、「自助」としてのケアの考え方は、明らかに持続可能ではない。家族に押しつけられた労働を社会で分担しなければ、そしてその価値を評価していかなければ、その労働分配をめぐる不平等は、ジェンダーや人種、移民差別を維持し続けることになる。ケアをめぐる価値が低いままだと、ケアを担う人たちの政治的・社会的発言力も低いまま、他方で、政治は「無責任な特権者」によって独占され続けることになる。

最後に、トロントの言葉を今一度噛みしめたい。「民主主義は、ケアに対する責任配分について論じ、決めるさい、できるだけ多くのひとが参加することを保障しなければならない。」



Ed. ベンチャーの学習会の予定 (詳しくはHPをご確認ください)

- 授業研究会 2月26日(金) 20:00～、3月24日(水) 20:00～ Zoom
石井英真著『授業づくりの深め方:「よい授業」をデザインするための5つのツボ』の講読会
- 外国人の子ども理解のための学習会 3月27日(土) 13:30～ Zoom
「小学校における国際教室の役割と普通学級との関係性に関わる研究」修士論文報告(根岸佐織さん)
- インクルーシブな社会を目指す学習会 3月27日(土) 15:30～ Zoom
「障がい児の被る偏見と差別」卒業論文報告(横山青空さん)

Ed. ベンチャー総会

2021年度のEd. ベンチャーの定期総会を下記の要領で行います。会員でなくても参加可能です。Ed. ベンチャーの事業全体を知りたい機会ですので、ふるってご参加ください。

日時: 2021年2月23日(火・祝日) 14時10分～15時20分

場所: 大和市ポラリス会議室7 (Zoomによるオンライン参加も可。申込〆切2月20日(土))